

本講演会のねらい

計測標準フォーラム：2000年12月に当時の通商産業省工業技術院標準部
知的基盤課の支援の下、14の計量関係団体／機関から発足。

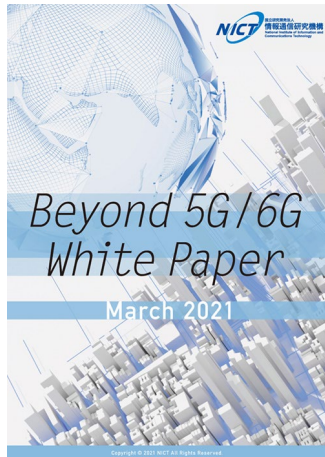
主な活動：相互協力・計量トレーサビリティの普及・情報交換・調査
目的：安全・安心な国民生活の実現及び産業界の発展に寄与する

複雑に絡み合った社会課題と基盤技術としての計測の重要性
計測標準フォーラム関係者だけでなく
ステークホルダーとの接点・連携の場へ

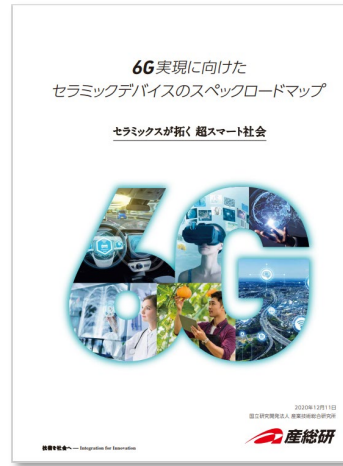
- 複数の企業・機関
- パートナーシップ
- 互いの強み
- 生活者や社会の存在
- 共存共栄・持続的発展
- 経済安全保障
- 少子高齢化・事業環境の変化に対するイノベーション

6Gに向けた期待

- 日常生活にとって欠かせないインフラ（新型インフルエンザが加速・通信障害による影響）
- 様々なサービスとビジネスチャンス（低遅延、高速通信、多数同時接続）
- 政府・機関から施策、ロードマップやホワイトペーパーが公開



©NICT



©AIST

総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications

MIC ICT Policy (English / French)

報道資料

令和2年6月30日

「Beyond 5G推進戦略 - 6Gへのロードマップ-」の公表

総務省は、5Gの次の世代である「Beyond 5G」(いわゆる6G)の導入期に見込まれるニーズや技術進歩等を踏まえた総合戦略の策定に向け、令和2年1月から「Beyond 5G推進戦略懇談会」(座長:五神典 東京大学総長)を開催し、Beyond 5Gの導入が見込まれる2030年代の社会において通信インフラに期待される事項やそれを実現するための政策の方向性等について検討を行ってまいりました。

今般、同懇談会において取りまとめられました「Beyond 5G推進戦略懇談会 提言」を受け、「Beyond 5G推進戦略 - 6Gへのロードマップ-」を公表します。

また、取りまとめに先立ち、「Beyond 5G推進戦略骨子」に対する意見募集を行いましたので、その結果についても公表します。

申請・お問合せ English サイトマップ 本文へ

ニュースリリース 会見・動静・談話 審議会

特定高度情報通信技術活用システムの開発供給及び導入の促進に関する法律

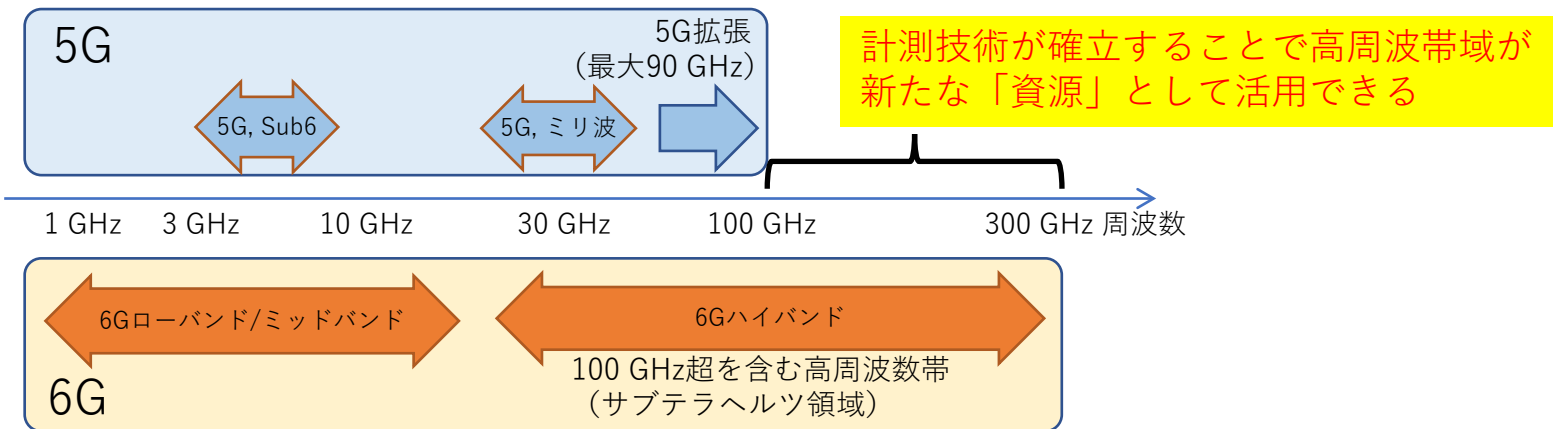
[5G情報通信システム(法第2条第1項第1号)関係]

新着情報

- 認定開発供給計画(全国5G)を公表しました。(令和4年8月18日)
- 認定導入計画(全国5G)を公表しました。(令和4年7月8日)
- 認定開発供給計画(ローカル5G)を公表しました。(令和4年6月13日)
- 認定導入計画(ローカル5G)を公表しました。(令和4年5月20日)
- 申請要領を更新しました。(令和4年4月28日)
- 5G導入促進税制に関するQ&Aを更新しました。(令和4年4月1日)
- 特定高度情報通信技術活用システムの開発供給及び導入の促進に関する法律に係るページを公開しました。(令和2年8月31日)

前提となる基盤

- 国際標準化
- 標準に対する適合性評価（認証、試験）、生活者にとっての判りやすさ、安全・安心（セキュリティ）
- 未開拓周波数領域の計測技術



NTT DOCOMOホワイトペーパー・5Gの高度化と6G掲載データから

- 材料、デバイス、コンポーネントレベルの要素開発、評価技術
- 計測・評価を軸に横断的な議論を、競争以前の基盤的事象についてオールジャパンで対応を

2022年国際度量衡総会決議案

- UTC（協定世界時）を唯一の推奨される時系であることを共有すること
- 将来、うるう秒を挿入する際の最大偏差を議論すること

天文時系との差が0.9秒以上にならないよううるう秒を挿入



情報通信研究機構提供

メガIT企業で行われていること
うるう秒の
Leap Smearing（分散挿入）

1秒を数時間から1日掛けて分散して挿入する方法（企業によって異なる）

例えば24時間かけて1秒を分散する場合、1秒あたり11.6マイクロ秒の偏差に相当

5G、6Gにおけるサービスで想定される事象

自立走行車は、少なくとも5 cmの位置決め、167 ps精度が必要（メートル条約時間周波数諮問委員会の調査から）

11.6マイクロ秒は3470メートルの偏差に相当

時系の精度が上がることで時間当たりの情報という資源が新たに生まれる